◎キックリンカプセル・△顆粒　［内］

【重要度】　【一般製剤名】ビキサロマー　Bixalomer　【分類】リン吸着薬

【単位】◎250mg/Cap，△顆粒 86.2%

【常用量】1 回 500mg，1 日 3 回毎食直前［最大 7500mg（30 カプセル）］

【用法】食直前

【透析患者への投与方法】1 回 500mg1 日 3 回から開始し，血清 IP 値 6.0mg/dL を超えれば 1 回量を 250～500mg 増量，3.5～6.0mg/dL ならばそのまま維持，3.5mg/dL 未満なら 1 回量を 250～500mg 減量（1）投与開始時，用量変更時は 1 週間後を目安に血清リン値を確認（1）増量は 1 週間以上の間隔をあけて行う（1）

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量（1）

【特徴】非吸収性のアミン機能性ポリマーで，消化管内でリン酸と結合して，リン吸収を低下させる．水分吸収による膨張が少ない．血清 Ca 値に影響を与えず，セベラマーのように血液重炭酸イオン濃度の低下をもたらさない．

【主な副作用・毒性】腸管穿孔，腸閉塞，虚血性腸炎，憩室炎，肝機能障害，便秘，腹部不快感，腹部膨満，消化管出血など，消化器系がほとんど．

【安全性に関する情報】3000mg/日投与中に腸管穿孔を起こした症例（元 志宏，他：透析会誌 46：1069-73，2013）

【吸収】吸収されない（1）

【MW】高分子

【透析性】該当しない（5）

【相互作用】吸着による併用薬の吸収遅延や吸収低下をきたす可能性あり（1）

【主な診療報告】セベラマーよりも副作用が低頻度でリンをコントロールできる（Akizawa T, et al: Ther Apher Dial 18: 122-31, 2014）

セベラマーからの同用量での切り替えで血清リン値が低下［消化器症状は変わらず］（Gen S, et al: Ther Apher Dial　S2: 8-12, 2014 PMID: 24975889）

セベラマーよりも消化器症状が軽度（Ito K, et al: Ther Apher Dial Suppl 2:19-23, 2014 PMID: 24975891）

HD 患者においてセベラマーからの同用量の切り替えで胃酸逆流，心窩部の膨満感，便秘，アシドーシスの改善がみられた（Hatakeyama S, et al: BMC Nephrol 14: 222, 2013　PMID: 24119202）

HD 患者におけるリン低下効果は用量依存的（Akizawa T, et al: Ther Apher Dial 2014 PMID: 24975892）

【備考】食直後投与の効果は検討されていないが効果は得られる可能性がある（1）脱カプセル不可（1）原薬の臭気があり，経管栄養チューブ内で膨張して閉塞する可能性がある（1）

【更新日】20231206

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。